



I-OWA マンスリー・セミナー講演より 投資耐久力をつける知識(下)

講演：岡本 和久
レポーター：赤堀 薫里

3回シリーズでお話してきた今回は、歴史と心構えについてお話します。歴史から学ぶことは、バブルは発生して崩壊する。しかし、いつバブルが発生して崩壊するのかは予想できない。大体バブルが発生して終わった後にあれはバブルだったとわかります。いま「これがバブルだ！」と言っているうちはあまりバブルではないことが多いのです。

いくつものバブルを経過して世界の企業価値は増大して、価格は価値にいずれ反映されていく。長期的にはポートフォリオが保有する株式の価値は全体としては増えていきます。バブルがあろうがなかろうが、世界経済全体を総体としてみた企業の中にある株主資本が、だんだん増えていっている。その価値の増加はいずれ価格に反映されていくこととなります。



いつもバブルの絶好の材料となるのは、明るい未来への展望です。将来に明るい展望があっても、目先の経済が停滞しているときにバブルは起こりやすいものです。経済危機は金融危機を引き起こします。そして危機の拡散を回避するために大幅に金融が緩和される。証券のリターンの源泉は、企業が生み出す付加価値以外はないのです。企業の生み出す付加価値は、短期的には実態経済に閉塞感があるのでなかなか増えない。しかしお金の量は増える。するとお金一単位あたりのリターンが希薄化していく。投資リターンが上げにくい時代になるのです。それを補うために用いられるのが、金融緩和を背景にした投資リターンを増やすためのレバレッジや、低価格付けの証券投資、短期売買。それで派生証券や仕組み債が広がり、これらがバブルを一段と大きなものにします。

実体経済はあまり良くないのに資産価格は上昇する。上昇するからみんなが買う。それによってさらに価格が上がる。こうして資産・信用バブルが起こる。バブルが破裂しそうになるとグローバル金融危機を回避するために資金がさらに供給されます。公的資金により危ない金融機関が救済され、公的な債務が拡大していく。国の財政状況が悪くなり、緊縮財政になり、社会保障も増やせない。増税、超金融緩和が続き、通貨安競争に走りやすくなる。インフレはそんなに起こっていません



長期投資仲間通信「インベストライフ」

んが、こういうことが庶民生活で非常に大きな不満感を生み出して、民衆の反乱が起こりやすくなったのがこの10数年の世界です。一方、グローバル化は、情報化によりネットやSNSで世界中の個人がどんどんつながることで、個人の活動や思いが一つの集団としてまとまりやすくなります。これが世界的に過激な行動を生み出す背景にあるのでしょうか。

結局、金利は時間価値の現れです。金利がゼロになるということは、時間価値がほとんどなくなるということ。会社の経営も投資も、長期にわたって大きく儲けるという発想がなくなってきていることがすごく大きな問題だと思います。金利と時間価値がどんどん縮小していき、ショートターミズム（短視主義）が世界を支配する。できるだけ早くたくさん儲けたい短期投資。企業経営者も、とにかく早く儲けて多額の報酬をもらって逃げ去りたい。そんな風潮が世の中を支配します。

一方、投資耐久力強化で必要なのが心構えです。ある意味、資産運用の中で最も重要なことです。ある程度の知識はもちろん必要ですが、始めたら続けていく。その続けていくための心構えということ、これが成功のためのカギです。ポイントは、意識の時空を広げ、空間軸、時間軸を大きく広げること。いま・自分という小さな箱から飛び出して、永遠・世の中のことを考えるという心構えができてくると資産運用も非常にスムーズにできるようになると思います。

今の自分の身の回りばかりでなく意識を拡大して世界を眺めれば、個々人の生活、人生の質を向上する努力が続いている。特に発展途上国は新興国での生活は大きく変化しています。その膨大な需要を世界中の企業が満たしています。世界の人々のより良い生活への希求を満たしているのは世界中の企業です。人生を通しての資産運用はそれらの企業をまとめて長期保有しようというものです。意識が拡大していると、心から納得して時間軸を広げて長期で積立投資が無理なくできます。空間軸を大きく広げて全世界への株式投資をする。それは個別銘柄への投機、短期の投資からグローバル株式インデックスファンドの長期積立による資産形成の動きになるわけです。

意識や時間を拡大していくことで、資産運用は手間もかからないし、誰にでもできるものになります。これは非常に面白いことだと思います。資産運用の枝葉を切り落として簡単にすることを突き詰めるとそういうことになる。大きな変動が、ストレスの源泉になります。大きな心になるほどストレスがなくなります。

講演の前半は、株式市場の長い歴史を世界的に振り返り、チューリップバブルをはじめとした古典的なバブルの歴史を回顧し、80年代後半の日本株バブルについて解説くださいました。後半では、心構えとして、老荘に学ぶリラックス投資術、「井原西鶴」「石田梅岩」「二宮尊徳」に学ぶ資産運用と企業経営について解説され、老荘思想や和風の感性は、投資に非常に適したものと結ばれました。